

報道発表資料の配付日時 2025年5月26日(月) 10時00分

手術支援ロボット最新機種 「da Vinci (ダヴィンチ) SP (単孔式) サージカルシステム」による

肺がんに対する東日本第1例目の手術を実施

～呼吸器外科領域の手術に新たな手術支援ロボットを導入～

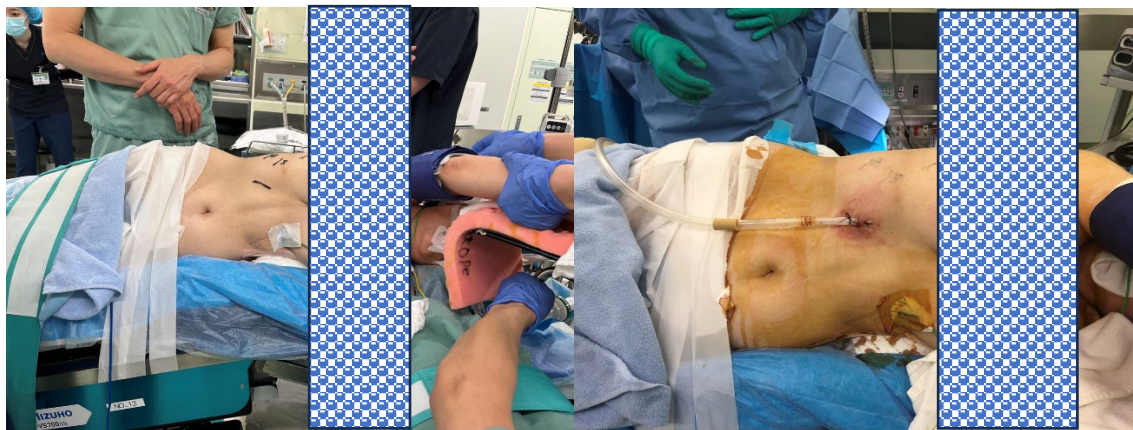
<概要>

札幌医科大学附属病院(病院長 渡辺 敦)では、2022年11月から保険適用となった米国インテュイティブサージカル社の最新手術支援ロボット「da Vinci (ダヴィンチ) SP (Single Port=単孔式) サージカルシステム」を導入し、縦隔腫瘍への東日本で第1例目となる手術を2024年8月に実施し、また2025年1月に同様に東日本で第1例目となる肺がんに対する手術を実施しました。その後5月21日までに計14例の手術を実施し、いずれも安全に終了しました。

手術を担当した呼吸器外科 宮島 正博 講師は、2018年にロボット手術を開始し、100例以上のロボット手術の経験があります。これまで行っていた多孔式のロボット手術では5か所の穴をあける必要がありましたが、単孔式のロボット手術では、みぞおちを約3.5cm切るだけで、全ての手術操作を完了することができ、整容性(キズが少ない)と低侵襲性(身体に負担が少ない)に極めて優れています。(下記写真参照)

今回「呼吸器外科領域において、これまでのロボット手術と比べて小さな傷で手術が提供できるようになります」と述べました。ロボット支援下縦隔腫瘍手術では胸部に一切キズをつけずに精度の高い手術が可能となります。

札幌医科大学附属病院 呼吸器外科では、引き続き、道民の皆様に最新かつ最善の質の高い医療を提供してまいります。



<手術前の皮膚切開線>

<手術後の創部>

ダビンチ SP について：

ダビンチ SP は、米国インテュイティブサージカル社が提供する最新の手術支援ロボットで、2023 年 1 月に日本で薬事承認されました。

従来型のダビンチ Xi は、アームが 4 本であるのに対し、ダビンチ SP システムはシングルポートシステムで、1 本のカニューラと呼ばれる筒からカメラと 3 本の鉗子などの機器を体腔内に挿入して手術を行うことができます。最小で 1 つの切開創で手術を行うことも可能となり、創部の痛みなど患者さんの負担を軽減することが期待されます。

<本件に関するお問い合わせ先>

所属・職・氏名：札幌医科大学附属病院 呼吸器外科 講師 宮島 正博

TEL：011-611-2111（33020）

FAX：011-676-3709

E-メール：miyajima@sapmed.ac.jp